



▲笑顔で元気な丸山さん

福祉ひろばは、市内に36カ所あり、住民のふれあいの場、相談窓口、健康・福祉づくりなどに取り組んでいます。福祉ひろばを訪れると、この日はスポーツ吹き矢が行われていました。参加者の南大妻の丸山さんにお話を聞くと、「スポーツ吹き矢は妻と一緒に始めて8年くらいになるでしょうか。腹式呼吸のため、体の調子も良く、的の真ん中に当たれば気持ちがいい！仲間と話をするのも楽しい」と笑顔で話していました。

山さんは、「健康寿命延伸のために大切なことは、人とのつながりと笑顔で、そんなことがたくさん生まれる場になるように心掛けています。新型コロナウイルスで中止となる活動もありますが、参加者は生き生きと笑顔で活動をしています。住民の皆さんの沢山の参加を待ちしております」と話していました。

スポーツ吹き矢は毎月第1、第3火曜日の午前、午後に行っています。

参加ご希望の方はお気軽にお問合せください。
(梓川地区福祉ひろば 7813000)



▲呼吸を整え、的を狙う丸山さん



梓川の
世帯数・人口

世帯数	4,745 戸
人口	12,521 人
男	6,174 人
女	6,347 人

(令和3年7.1現在)

梓川の
重要無形
民俗文化財

花見の御柱

平成19(2007)年3月30日に松本市の重要無形民俗文化財に指定された花見の御柱は、歴史は古く戦前から受け継がれる行事です。

昔は3カ所にある道祖神(上、中、下)にそれぞれ建てられました。少子化や時代の変化により、現在は公民館のそばに建てられるのみとなりました。

毎年元日の早朝に子どもたちが集まり、3カ所の道祖神にお参りをし、その帰りに「御柱を建てに来ておくりやー」と声をかけ大人たちを起こして歩いたのですが、これも時代の変化とともに、今は行われていないようです。

現在では早朝に小学生、PTA、育成会役員、町会役員と当番の組の方が集まり日の出とともに日の方角に向け御柱を建てます。

なぜ日の出と共になのか？先日ご年配の方とお話をする機会があったので聞いてみました。

「神様は日が昇るときに降

りてこれらると思われていて、その時に五穀豊穡や家内安全などを願う御柱を立てるんだよ」と教えてくれました。

ますます少子高齢化が進む中、御柱をどう保存し継承していくのか、今まで以上に町会皆さんの協力が必要となりました。



▲花見の御柱

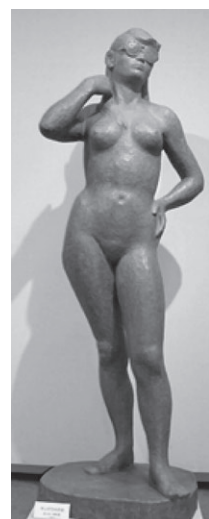
梓川アカデミア館探訪

「洞澤今朝夫」

第2回目の梓川アカデミア館探訪では松本市出身の彫刻家、洞澤今朝夫を紹介しました。

大正3(1914)年に松本市の植木鉢などを造る焼物店に生まれ、21歳で上京、23歳で太田南海の門下生となり本格的に彫刻を学びはじめました。以来、仏像彫刻の道を歩み、次第に幅広い彫刻を手掛けるようになります。日展に連続入選するなど信州を代表する彫刻

家となっていました。アカデミア館には、ご本人からの寄贈作品など約60点を収蔵しており、素朴さの中に生命力が満ちあふれる女性の健康美を表現した作品「サングラスの女」は、それまでのおとなしい女性の趣とは異なった作品にしようと制作され、昭和61(1986)年、第18回日展において特選に選ばれ、洞澤の代表作となりました。「芸術は偶



「サングラスの女」木彫1986年

然的ではない、勉強、経験を重ねた結果たどり着くものである。」と語った洞澤は、102歳の生涯を終えるまで素朴に謙虚な心で作品をつくり続けました。

アカデミア館ではコレクション展「洞澤今朝夫作品展」を8月28日(土)から10月3日(日)まで開催予定です。どうぞお楽しみに。

丸田町会・公民館活動

二二deサロン

昭和28年に建てられた丸田公民館は、戦後の地域活動の拠点として使われてきました。が、老朽化と耐震基準も問題となり、建て替えが必要となりました。

建て替え時の町会役員の中から、「新しくなった公民館を有効活用し、地域の結びつきのためにも何か行事をしたい」との発案で、なんとなく集まり、みんなでできることをやっていこうということになり、公民館でお茶を飲みながら井戸端会議を行うようになりました。

最初の平成27年4月はお花見から。お花見は昨年と今年はさすがにできませんでしたが、毎年の恒例行事となっています。例会は原則毎月16日、内容は毎回の終わりに話し合い、月初めに、前回の行事内容(写真入りで)と共にお知らせのチラシを町会の回覧に入れてもらいます。

今まで数々の行事を行ってきましたが、大きく3つの行事に分けられます。

一つ目は講師を招き行う学びです。丸田公民館は松本市



▲出前講座で学習をする様子

が募集している出前講座をたびたび利用しています。最初に行ったのは「松本市美術館収蔵作品の解説」でした。美術館で草間彌生の作品を含む展示を解説付きで学芸員に案内してもらいました。その後も水道局、松本城や旧開智学校などを訪れました。また、公民館に講師を招き、認知症予防や歯科予防など健康管理についても学びました。

その他、同じ町内に住む郷土史に詳しい方に地名、神社、お寺の由来や梓弓について何回かお話ししてもらいました。

また、町内に工房をお持ちの竹細工作家から竹細工の魅力や海外展示会の様子などを聞いたり、簡単なキットを使った竹細工の指導をしてもらいました。

二つ目は体操やゲームなど

のレクリエーションです。体操やミュージックベルなどはみんな夢中になって行います。三つ目は飲食を伴う宴会です。忘年会、新年会、焼肉ソバ打ちなど定期的に行っています。

参加者は毎年少しずつ入れ替わってきましたが毎回10人前後、7年前に始まった頃は8割が女性でしたが、最近では男性の参加も半分近くまで増えてきました。

館内での会合は自粛せざるを得ない状況ですが、最近で

西山に城跡を見つけた

南北条に住む私にとって北条城跡は小学校の遠足等で行き馴染みがありました。が、スマホで北条城の南側に城のマークを見つけ、気になり調べてみました。

梓川村誌を調べると、この城跡は亀山城とわかりました。南北条ではこの裏山を城山や亀山と言ひ、カメが南に頭を向けて伏せている山容です。室町後期までの豪族西牧氏は、国府筑摩と飛騨の国府高山を結ぶ交通の要衝にあつたこの地に、主城である北条城、北に中塔城、南に亀山城・田



▲花壇の手入れをする様子

は公民館周辺での春秋恒例の花壇の手入れを行いました。コロナ騒動が収束して、以前のような井戸端会議が行える日が戻りますように。

屋城や鞠子山砦の他に上野段丘縁に複数の砦を構築しました。しかし、小笠原長時に中塔城を奪われた後、本神沢端砦を固めたそうです。

中世の山城は簡素で風雨をしのぐ程度の構えで、地形を活かして空堀がありました。松本城のような平城ではなく、わずかに礎石を残すのみですが、中世の梓川にも壮大な歴史があったと、郷土の歴史に触れたひと時でした。



雑記帳

駐車場などで白と黒の小さな鳥が、人のけつこう近くでも「タタタ」と歩いているのを見るの、いくつかの間にか日常に。その鳥は「ハクセキレイ」。昔はそう見かけなかったが、いつの間にか人里の仲間に。そういえばその反面スズメの姿を昔ほど見なくなりました。一説ではここ20年で半減しているとも聞く。温暖化の影響で生態系に変化があったのかと思えば、生活圏である人里の環境の変化によるものらしい。木造住宅や物置の隙間などに外敵から身を守るように巣を作っていたのが、最近の高気密住宅の普及などでその場所も見つけにくくなった。他にもエサとなる虫の減少などもある原因であるらしい。収穫前の穀物を食べてしまうとところが嫌われる反面、害虫も食べてくれる持ちつ持たれつ関係でもあるスズメ。幸い、まだこの梓川辺りではその姿は普通に見る事ができるが、これからもハクセキレイともどもそうである事を願う。